

浦添市まちづくりプラン

未来を守る本物の森づくり プロジェクト

＝小中学校樹木調査 ・ 緑の学習会＝

今回実施した学校：
仲西中学校・仲西小学校・
宮城小学校

浦添グリーンベルトプロジェクト



浦添域の土地的極相林とは

植物社会学・潜在自然
植生的に推論

1 浦添市域の極相林種の生態的最適域分類

ガジュマル林ーハマイヌビワ林・・・露岩地、崖地

タブノキ林・・・湿潤地、肥沃地

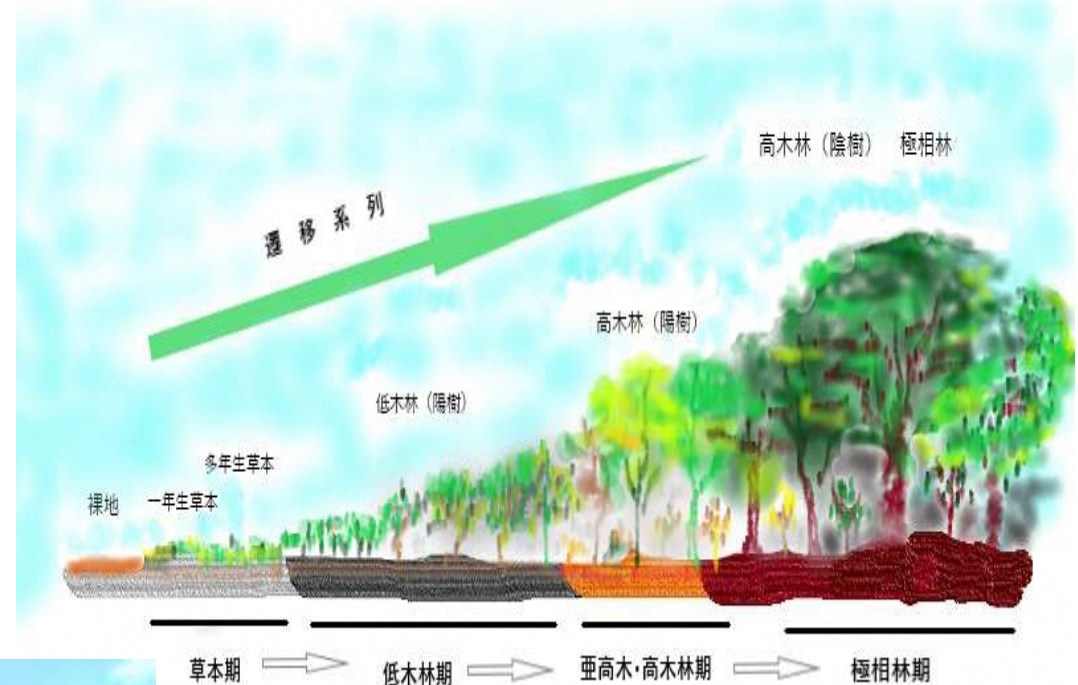
ヤブニッケイ林・・・乾燥地、肥沃地の中間的土壤

アマミアラカシ林・・・乾燥地、貧養地

2 調査地の土地的極相林の推定

仲西小中学校の推定土地的極相林・・・アマミアラカシ

宮城小学校の推定土地的極相林・・・タブノキ



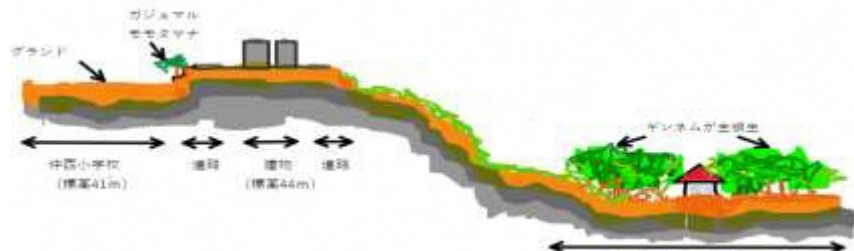
仲西小中学校周辺の残存緑地と地質・地形調査

(調査日: 2019.9.26 午前中)

2019年10月23日

10:00

地形断面イメージ図 (1)



アマミアラカシ



タブノキ

樹木調査風景

3学校の樹木調査内容

1. 地区のエリア特性
2. 主な樹木の配置
3. 主な樹種とその特徴
4. 推定される植栽目的
5. 樹木の状態
(樹高・幹回り・枝張り等)
6. 樹木の平均的活力度 (健康度)
＝主に着葉量により判定＝

※フロラ調査 (必要に応じ実施)



仲西小学校の調査結果及び緑の学習会

1. 樹木調査結果

- (1) 調査日時：令和元年8月21日
～ 9月28日 (5回)
- (2) 調査樹木本数 63本
- (3) 平均活性度 普通レベル
- (4) 21種の内在来種18種、
外来種3種

2. 緑の学習会

- (1) 日時：令和2年2月12, 14日
- (2) 参加者：児童22名、大人17名
- (3) 内容：講話、野外学習、
アマミアラカシのドングリの種まき

仲西小学校緑の学習会



仲西中学校の調査結果及び緑の学習会

1. 樹木調査結果

- (1) 調査日時：令和元年10月22日～
10月30日（4回）
- (2) 調査樹木本数 59本
（詳細調査＝28本 13種）
- (3) 平均活性度 普通レベル
在来種10種、外来種3種。
- (4) フロラ調査：在来種20種、
外来種 1 種

2. 緑の学習会

- (1) 日時：令和2年2月5日
- (2) 参加者：生徒8名、教員4名、
大人4名
- (2) 内容：講話、アマミアラカシの
ドングリの種まき

仲西中学校緑の学習会



アマミアラカシのドングリ

宮城小学校の調査結果及び緑の学習会

1. 樹木調査結果

- (1) 調査日時：令和元年11月6日
～11月20日（4回）
- (2) 調査樹木本数 81本
（詳細調査＝60本 32種）
- (2) 平均活性度 普通レベル
- (3) フロラ調査：在来種36種、
外来種36種 合計72種

・宮城小学校緑の学習会



2. 緑の学習会

- (1) 日時：令和2年2月20日、25日
- (2) 参加者：児童143名
- (3) 内容：講話、アマミアラカシ
のドングリの種まき、
タブノキ苗木植栽





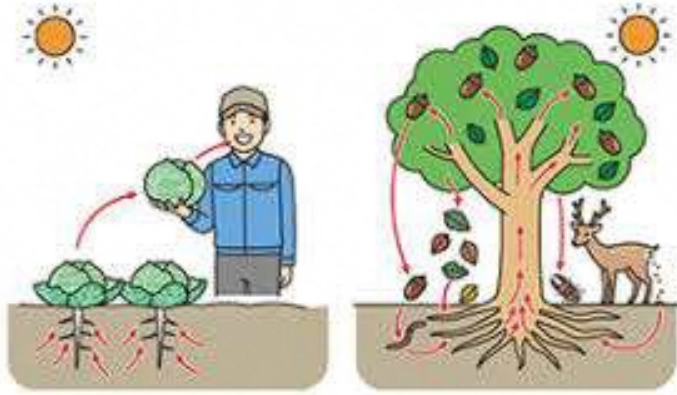
学校林調査の総括及び提言

極相種であるアマミアラカシ、タブノキを1本でも多く育成し生態系的に最も安定した森「本物の森」への復元努力が必要

学校における極相種を育成する意義

1. 極相種（アカミアラカシ・タブノキ）を育成する意義を教えることにより、自然生態系等の考え方や環境問題等への意識を高めることができる。
2. 入学時に記念樹としてアマミアラカシのドングリを植え、卒業までの期間一貫しての管理育成が可能。
3. 学校は、植栽地が確保しやすい。
4. アマミアラカシ・タブノキは陰樹なので校舎裏等の日陰地でも生育可能。





緑の学習会に対するアンケート結果

1. ただ「樹を植えればいい」というわけではなく、樹にとって快適な環境を作ってあげるとよく成長するということが解った。
2. 植物にも人間と同じように栄養が必要と解った。
3. 樹に対する思いやりが必要と解った
4. 樹に対する関心が高まった
5. 学校にとって実験的な取り組みであったが、初めて学ぶことが多く、収穫があった

